

令和元年度 第1回「佐世保市環境教育等推進黨議会」議事要旨

日 時：令和元年9月9日（月）13:55～15:40

場 所：佐世保市環境センター3階 大会議室

出席者：【委員】

芳賀会長、佐藤副会長、片渕委員、高橋委員、山口委員、上田委員、西浦委員、宮本委員、小野委員、山本委員、松本委員、須藤委員、陣内委員（代理：松永主査）

【事務局】

木村環境部長、高島次長、荒木課長補佐、濱崎課長補佐、西嶋係長、小森主任主事、山口主事

会次第：

1. 開会
2. 環境部長あいさつ
3. 会長及び副会長選出
4. 議事
 - (1) 第2次佐世保市環境教育等推進黨行動計画の概要
 - (2) 計画最終年度（平成30年度）における計画の進捗状況の評価
 - (3) 令和元年度の取り組み
5. 閉会

議事 (1) 第2次佐世保市環境教育等推進行動計画の概要 《資料2》、《環境基本計画 [概要版]》	
事務局	<p>【《資料2》1ページ】</p> <p>計画策定までの経緯について、平成9年に総合的、計画的な環境保全に関する施策を推進するために「佐世保市環境基本計画」を策定している。</p> <p>平成13年には、環境教育等推進行動計画の前身である「佐世保市環境教育・環境学習計画」を策定し、環境に対する豊かな感受性や見識を持つ市民の育成を図ってきた。</p> <p>その後、平成26年に策定した「佐世保市環境教育等推進行動計画」の計画期間の満了を迎え、環境基本計画の改定、国の環境教育に関する基本方針が変更されたことを受けて、昨年度、本協議会で5回会議を開催し、委員の皆さまのご協力を得て、平成31年3月に「第2次佐世保市環境教育等推進行動計画」を策定した。</p> <p>本計画の目的は、環境教育等促進法に基づく本市の「行動計画」となっていると同時に、「環境市民」を育成し、佐世保市環境基本計画に掲げる望ましい環境像「自然と共に生きるまち させぼ」を未来の子どもたちに受け継いでいくための部門別計画としても位置付けている。</p> <p>計画の期間は、今年度から「佐世保市環境基本計画」の中間見直し時期である令和4年度までの4年間としている。</p> <p>【《環境基本計画 [概要版]》1ページ】</p> <p>「佐世保市環境基本計画」について概要を説明する。</p> <p>環境基本計画とは、本市環境行政を行っていく上での最上位の計画である。</p> <p>計画期間は平成30年度から2027（令和9）年度までの10年間となっており、5年後の2022（令和4）年度に中間見直しを予定している。</p> <p>【《環境基本計画 [概要版]》5ページ】</p> <p>環境基本計画では、本市が目指す望ましい環境像として、「未来の子どもたちに、豊かな緑と水辺に恵まれた自然環境を守りながら同時に発展し続けるまち『自然と共に生きるまち させぼ』』というものを掲げている。</p> <p>【《環境基本計画 [概要版]》6ページ】</p> <p>その環境像の実現に向けた取り組みとして、記載のとおり6つの基本目標を設定している。</p> <p>表の一番下の紫の枠で囲っている「基本目標1～5までの共通基盤となる」基本目標6「環境保全活動の推進」、この基本目標を実現させていくための計画が「佐世保市環境教育等推進行動計画」となっている。</p>

【《環境基本計画 [概要版]》 12 ページ】

その基本目標6の取り組みとして、「環境マネジメントの考え方を普及する」、「環境情報の発信・共有を進める」、「環境教育を推進し、“環境市民”を育成する」、「協働による環境保全活動を展開する」といった4つの取り組みを行うこととしている。

【《環境基本計画 [概要版]》 14 ページ】

基本目標6のほかにも、環境基本計画では、令和4年度までに重点的に取り組む「重点プロジェクト SASEBO “e” PROJECT」を設定している。

その中でも、「させぼエコプラザを地球温暖化対策や環境教育の拠点として整備し、地球にやさしいエコライフを実行し、環境問題について自ら進んで学び・考え・行動する『環境市民』を育てていく」ことを目指している。このように、環境教育等推進行動計画については、環境基本計画でも重要な位置付けということになっている。

【《資料2》 2 ページ】

(1)の前計画の取り組みについては、「人づくり」・「地域づくり」・「ネットワークづくり」の3つの柱を設定し、環境教育を推進してきたが、(2)の課題としては、「人手不足」「大学生等の若者世代の参加」「情報発信」「活動団体とのネットワークづくり」というものが課題となっていた。

【《資料2》 3 ページ】

今回の計画においては、前計画の取り組み自体は基本的に踏襲しつつ、前計画での課題、国や県の動向、佐世保ならではの取り組みを踏まえながら、「佐世保市環境基本計画」の重点プロジェクトの中でも、「環境教育の推進」を中心に総合的に取り組みを推進し、環境市民の育成を図っていくこととしている。

【《資料2》 4 ページ】

具体的な施策展開においては、「(1)の前計画の課題」の解決や「(2)の新たな取り組み」も踏まえ、「環境教育プログラムの実施」「地域における環境教育の充実」「学校等における環境教育の充実」の3つの柱を中心として事業を推進することとしている。

【《資料2》 5 ページ】

本計画を着実に実践に移し、その達成・進捗状況を点検・評価し、さらにそれを次の実践へとフィードバックさせていくため、記載のとおり総合指標及び活動指標を設定している。

進捗管理については、本協議会で点検・評価を行い、今後の取り組みへ反映させていくこととしている。

副会長	第2次佐世保市環境教育等推進行動計画は、出来上がったばかりなのか、今からなのか。
事務局	今年度からの計画となっている。
委員	周知方法の面で確認である。 新しい計画はどのようなところに、配られて周知を図られているのか。
事務局	市内小中学校、市役所内部の関係課かい、環境保全等登録団体、こどもエコクラブ、させぼエコプラザ、佐世保市議会議員等に配付している。
委員	総合指標である「エコライフ実践度」は、どういうものを調べて、割合がでているのか。
事務局	環境部で毎年、市民3,000人を対象にアンケートを行っている。 内容については、計画書21ページに記載されているような項目について、「できている」「ときどきできている」と回答された割合である。
会長	何段階評価なのか。
事務局	5段階評価の内、「5 いつもできている」と「4 ときどきできている」と回答いただいた方の全体での割合である。
副会長	3,000人の抽出方法は。まんべんなく平均的に出しているのか。
事務局	本市に住民登録がある方で、男女同数、概ね支所管内ごとに人口按分し抽出している。 世代別についてはシステム上の問題で、振り分けは行えていない。毎年1,100~1,200程度の回答をいただいている。

事務局

【《資料 3》 1 ページ】

ここでは、平成 26 年度から平成 30 年度までの計画期間であった、前計画の最終年度の状況等を説明する。

まず、目標達成状況を一覧にしている。12 項目の目標があり、棒線で記載している単純比較ができなくなった項目が 1 つ、×で記載している目標が達成できなかった項目が 4 つあった。

次のページからは、個別に状況と課題などを整理している。

【《資料 3》 2 ページ】

環境関連講座の実施回数及び参加者数について、目標 50 回に対して、147 回となり目標を達成している。

増加している要因としては、どこでも環境教室、長崎県環境アドバイザー派遣制度、エコプラザの出前講座が認知され、活用されるようになってきたためと考えられる。

特に昨年度については、エコプラザの出前講座において、夏休みに学童や児童センターでの講座に力を入れたため回数が大幅に多くなっている。

課題等については、人手不足、他の団体等が行っている環境関連講座等が評価に反映できていない、若者世代が参加できるような仕組みづくりが課題となっていた。

今年度からの新たな計画においては、人手不足解消のために、環境保全に関して知識・経験をお持ちの方を「させぼ環境アドバイザー」、環境保全活動を行われている団体を「佐世保市環境保全活動団体」として登録することで人材の確保を行っていきたいと考えている。

他の団体が行っている環境関連講座等については、今回、佐世保市が行っている環境関連講座等及び、九十九島ビジターセンターが行っている観覧会等を評価に算入することとしている。

若者世代の参加については、大学と連携し学生を対象とした環境教育を行っていくこととしており、今年度は、長崎短期大学の保育学科の学生を対象とした事業を予定している。

【《資料 3》 3 ページ】

指導者養成講座については、目標を達成できたが、指導者及び環境保全団体等の登録数については、6 人、5 団体となっており、目標を達成できなかった。

課題等について、指導者養成講座は、具体的な内容や対象者を整理し、効果的に実施する必要がある。

指導者及び環境保全団体等の登録については、制度運用が平成 29 年度からであったので、登録数がまだ少ない状況であり、今後、登録数を増やす取り組みが必要となっている。

新たな計画においては、

【環境教育等推進行動計画書 26 ページ】

幼児向け環境教育プログラム体験会で、保育士の方などを対象として、園の中で、気軽にできる環境教育のプログラムを実際に体験してもらう先生たちへの環境教育の側面と、知ってもらうことで、通常の教育・保育の中で園児に対して実際に行っていただくという指導者育成の側面とを併せ持ったものを実施しており、今年度においても、ビジターセンターで開催している。

ページ中段は、先ほども紹介したが「長崎短期大学との連携事業」となる。学生に環境教育の手法を学んでいただくことで、将来活躍する場において環境の視点を取り入れた教育の実施が期待される。

【環境教育等推進行動計画書 28 ページ】

市行政の取組として、指導者の育成・確保のために、市民団体や事業者等の各主体と連携して、指導者養成講座等を実施し、そこで育成された人材や、環境保全活動を行っている市民団体等が活動・活躍できる場や機会を提供することとしている。

【《資料3》3 ページ】

(4)学校等に対する支援校数は、目標 26 校に対して 12 校となり、目標を達成することはできなかった。

課題等については、資料3の2ページの環境関連講座実施回数、参加者数と同じものとなっている。

【《資料3》4 ページ】

こどもエコクラブの会員数については、学校単位で加入していた団体が退会されたことから大きく減少し、目標を達成することはできなかった。

(6)環境学習サイト「eカンキョウ@サセボ」のアクセス数については、平成28年2月から、独自サイトから佐世保市の公式ホームページのコンテンツの一部として統合しており、コンテンツが埋もれてしまい、アクセス数が少なくなっている。

課題等については、コンテンツを見てもらいやすくする工夫が必要であると考えられる。

【《資料3》5 ページ】

環境マネジメントシステム取得事業所数、e宣言@サセボ認定団体数については、目標を達成している。

課題等については、目標は達成しているが、どちらも近年は、増えていない状況であり、今後は、長崎県や周辺自治体と連携しながら、取得事業者を増加させるための取り組みが必要となっており、今年度のエコアクシ

	<p>ョン 21 に関するセミナーについては、県と平戸市と連携し事業者へ呼びかけを行ったところである。</p> <p>【《資料 3》 6 ページ】</p> <p>させぼエコプラザの利用者数については、平成 29 年 7 月から、新たに「地球温暖化防止活動推進センター」の機能を付与し、新たな法人の下で、環境教育及び地球温暖化防止活動の拠点として、主催講座や定期講座、出前講座の回数が増加しているため目標を大幅に超えている状況である。</p> <p>課題等については、講座やイベント内容に、まだ改良の余地があり、エコプラザの認知度についても十分ではないと感じられるため、今後、さらに機能を充実させていく必要がある。</p> <p>(12)環境教育プログラム数については、目標を達成している。</p> <p>今後は、作成したプログラム以外に、指導者・団体登録が増えていき、講師として、それぞれの指導者・団体が独自に持たれているプログラムにより充実するものと考えている。</p> <p>【《資料 3》 7, 8 ページ】</p> <p>昨年度のイベントの写真を掲載している。</p>
委員	エコプラザの人数はどのようにカウントしているのか。
事務局	エコプラザへの来館者と各イベントの参加者数の合計である。
委員	カウンターなどは設置しているのか。
事務局	各種イベントについては、応募いただいた人数。 来館者については、目視である。
委員	学校に対する支援内容は、どのようなものか。
事務局	エコプラザが行う出前講座のほか、どこでも環境教室、県環境アドバイザーである。
委員	資料 7, 8 ページの写真は、どういう活動を行っているのか。
事務局	<p>7 ページ右上は、幼稚園や保育所の先生向けに「幼児向け環境教育プログラム」を体験していただくもので、体験された先生が、各園へ持ち帰っていただき、実際に幼児に対して、身近な自然と触れあえるような教育を実践してもらうものである。</p> <p>中段左側は、長崎短期大学の学生に対して、将来活躍される場（幼稚園等）などで、幼児に対して環境教育を行ってもらえるようにするものである。</p> <p>例として、ドングリを拾って飛ばしてみたり簡単に実施できるものとなっている。</p> <p>中段右側は、幼児向けのもので、海きららで開催した。幼児だけではなく、その保護者への環境教育ということでも行った。つりを行い、在来種（希少種）、外来種を覚えてもらうプログラムなど用意している。</p>

	<p>8 ページは、市内の希少動植物を現地で観察し、講師から解説をいただいているものとなる。</p> <p>下段右側は、市内でも特に希少な生きものを、地域の方々と一緒に守っていこうと開催しているものとなる。</p>
委員	<p>参加するためには、どのような手続きが必要なのか。</p>
事務局	<p>市のホームページや広報させぼで周知している。参加したいイベント等がある場合は、環境部へ電話やメールで応募するというかたちである。</p>
委員	<p>学校の支援校数について、市内小中合わせて 70 校近くある中で、12 校という実績は少ない。市が単独でやるのは難しいと感じる。関係団体などと連携して行うことが大切ではないか。</p> <p>教育委員会と連携し、学校教育の中で全小中学校、義務的にさせられないのか。やっている学校と、やっていない学校の差があるのは、どうかと思う。</p> <p>少なくとも学校の中の支援となると、平等でなければいけないのではないか。</p>
事務局	<p>支援校数で見ると非常に少なく、目標の 26 校につきも少なく見えてしまうのではないかと考えられる。</p> <p>現在、学校で環境教育を行っていないところは無いと思っている。自前で行われているか、本市やエコプラザのサポートを受けられているのかの違いである。</p> <p>我々としては、最終的に、自立して学校が主体的に行っていくというところを目指している。</p> <p>その取り掛かりとして、学校版環境 ISO という取り組みを行っており、現在 26 校認証している。認証してもらったら、こういう環境教育のサポートができるので、そこを活用してもらおうということ、教育委員会と連携している。</p> <p>しかし、学校が色々なものやっけていく中で、我々が入っていく隙というものが、まだまだ万全ではないというところもあることから、個別に学校を訪問したり、校長研修会をお願いしたりしながら広げていきたい。</p>
委員	<p>中学校までは、基本的に保護者・子どもたちは学校を選べないことから、学校に差があってはいけないと思う。そこは、教育委員会へ申し入れして均等に扱うべきではないか。</p>
委員	<p>基本的に学習指導要領により、子どもたちが学ぶべきものというものは、国内で均等な基準が整備されており、授業日数も定められている。</p> <p>その中で、理科や社会などで、環境教育を取り扱って、いわゆるベース面で教育委員会も関わっている。その面については、学校によって差があってはならないとなっている。</p> <p>そこから+αの部分というものは、各学校長の経営方針で変わってくる。</p> <p>どの部分に重点を置くのかは、その学校がおかれている地域の特色で変わってくるものであり、その差をもって、一概に不均衡とは言えないと思</p>

	<p>っている。</p> <p>学校方針と、市が行っている事業が合致する場合は、特に市の支援等を得ながら、特色ある学校づくりを進めているところもある。</p>
委員	<p>学校では、ベース面で何かしら環境教育に取り組んでいるとなれば、指標の見せ方として、支援校数というのは、全体の2割しかやっていないと見えてしまう。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、見せ方には課題がある。</p> <p>今年度からは、小学4年生は全学校、九十九島での学習が義務化されている。そういったところは、今までなかったものが、ベースとして追加されている。</p>
委員	<p>岐阜市では、10年かかって全小中学校での環境教育を、授業とは別に、地球温暖化防止活動推進員が学校へ赴き、各学校年間3回活動を行っている。</p> <p>佐世保市とでは、規模が違うが、学校・行政・地域とが連携し事業を推進している事例もある。</p> <p>長崎市では、重点校を定めて行政からお金を出して、事業を進めている例もある。</p> <p>佐世保市も、課題や規模に合った事業を進めていければ、より良くなっていくのではないかと思う。</p>
委員	<p>エコアクション21に関して、事業者の経済的負担が大きいので、費用を抑えていただかないと、中々広がらないと感じている。</p> <p>環境問題は重要であると、事業者は思っているが経済的負担を考えると、今すぐやることではないと判断されてしまう。</p>
事務局	<p>エコアクション21を取得するためには、コンサル等の勉強会を受講する必要があり、通常は、1回2万円程度負担しなくてはならないが、本市では行政（佐世保市）が行うため、無料で受講できる。</p> <p>一方で委員ご指摘のとおり、認証取得料というものがかかってくる。</p> <p>従業員数で変動するが、中小企業であれば概ね15万円程度及び審査員の旅費を合わせて20万円程度かかり、更新（2年）の都度費用が発生することとなる。</p> <p>本市では平成25年度までは、認証のための補助制度を実施していたが、現在は行っていない</p> <p>現在本市では、セミナーを通して、企業が温暖化対策の重要性を認識してもらおうということを行っている。</p>
委員	<p>エコプラザの実績が伸びており、既に新たな目標値を達成している。今後、見直し等、上方修正する考えはあるのか。</p>
事務局	<p>確かに実績が高いものがあるが、今後の推移を見ながら検討して行かなければならないと考えている。</p>
委員	<p>普段させばエコプラザの建物に出入りするが、来館者があまりいないような気がする。エコプラザに来てくれる人を増やすことで、環境活動を広</p>

	めることができると思う。
事務局	市の内部や市議会でも指摘させれているところである。 本年度は、テレビ佐世保で啓発番組を行うこととしており、そこでさせばエコプラザをアピールしていくこととしている。
委員	保育士や保護者向けのイベントは重要であると感じているが、中々一つの園だけでの取り組みは難しいため、市が行っていただくと大変ありがたいと思う。

議事 (3) 令和元年度の取り組み《資料4》	
事務局	<p>【《資料4》】</p> <p>九十九島ビジターセンター、環境部、少年科学館、港湾部、土木部、させぼエコプラザの今年度の予定の一覧となっている。イベントの広報については、それぞれで行われるが、環境部の方でも出来る限り情報を収集し、ホームページ等で周知していきたいと考えている。</p>
副会長	<p>イベント周知等はホームページ等となっているが、先ほどもあるように、見つけずらいといった課題があると思う。</p> <p>何か周知を工夫しているのか。</p>
事務局	<p>募集情報という形で、ホームページのトップ画面に出るようにしたり、フェイスブック等 SNS も活用しているが、難しいと感じている。</p>
委員	<p>今年度は、指導者養成講座は無いのか。</p> <p>指導者の高齢化が進み、一から指導者を育てることは難しいが、少しでも興味がある方を発掘できたら良いと思う。</p>
事務局	<p>今年度は、先日行った、保育士向けの体験会となっている。</p>
委員	<p>ビジターセンターを活用されて、指導者養成講座を行っていただけですが、受講料がかかるのであれば、貸し出しができなくなってしまう。</p>
委員	<p>プログラム数が50種類とあるが、周知はどのような方法でされているのか。</p>
事務局	<p>現在は、主要なテーマ別に概要をホームページに掲載している。</p> <p>詳細なプログラムは、全学校へ配布することは可能である。</p>
委員	<p>佐世保市長が、経済発展と環境教育を両立した形で政策を進めていくべきと考える。</p> <p>本庁舎1階のロビーに環境に関するコーナーを設けられないのか。</p>
会長	<p>経済と環境は両立させないといけない。世界でもそこに向かって進んでいる。市民には見えにくい部分であるので、そこをどのように見せていくのが課題であると思う。</p> <p>皆さんと一緒に、環境教育とどのようにリンクさせていくのかを考えていければと思う。</p>
委員	<p>経済と環境と言え、SDGs である。環境教育の中に、その考えを入れるということは無いのか。</p>
事務局	<p>まずは、今の取り組みを推進していきながら、今後の検討課題であると認識している。</p>

その他	
事務局	<p>今回も、「意見シート」を配布している。</p> <p>今回の協議会で発言できなかった意見などがあれば、9月25日（水）までにFAXやメールで事務局まで提出願う。</p> <p>今回欠席の委員にも、今回の議事要旨と意見シートを送り意見をいただくこととしている。</p> <p>頂戴した意見については、来年度以降の環境教育に関する事業へ反映できればと考えている。</p> <p>次回の協議会は、2月中旬を予定している。</p>